

農業技術センターニュース

目次		
	ピーマン、シシトウの新病害「黒枯病（仮称）」	… 1
	ミツバチによる受粉が米ナスの収量・品質に及ぼす影響	… 2
	ピーマンの砂地栽培における施肥窒素の溶脱防止法	… 3
	ピーマン新品種「トサミドリ」と「トサミドリ2号」の育成	… 4
	単為結果性ナス「はつゆめ」の消費者評価	… 5
	グロリオサの草丈を低くする催芽方法	… 6

ピーマン、シシトウの新病害「黒枯病（仮称）」



葉の病徴



茎の病徴



果梗部の病徴



病原菌の分生子

2004年1月、土佐市の施設栽培ピーマン、シシトウで発生した障害は、*Corynespora cassiicola*という糸状菌による新しい病害であることが明らかとなり、病名として「黒枯病」とすることを提案しました。現在では、嶺北地域などの雨よけ栽培でも発生が確認され、全県的な広がりを見せています。

葉では初め褐色の小斑点があらわれ、しだいに拡大して黒褐色輪紋状病斑となります。茎では黒褐色に変色し、しばしば黒色でビロード状の菌叢がみられ、症状が進む

と枯死することもあります。また、果実や果梗にも黒褐色の斑点を生じ、品質低下となります。

菌の性質上やや高温で多湿環境が発病に適すると考えられることから、防除対策として換気に努め、施設内の湿度低下を図る必要があります。なお、新病害であるため登録農薬はありませんので、防除効果のある農薬の探索と農薬登録に向けた試験を行っているところです。

（病理担当 安達理恵、088-863-4915）